

第 26 期定時株主総会質疑応答概要
(2021 年 12 月 18 日開催)

Q1：株価低迷への当社の株価対策はどのように考えているのか。(オンライン質問)

A1：株主の皆様には（株価について）ご心配をおかけしており申し訳なく思っております。ヘルスケア事業を中心とした先行投資を行っている中で、現在の利益水準は決して高くなく、総還元性向の観点からも、自己株式取得は難しい状況ですが、IR 活動を通じて今後の成長ポテンシャルをお示ししていくことが重要だと考えています。中期的な収益イメージとしては、コンテンツ事業において、有料会員数減少傾向の中、セキュリティアプリの会員数が伸びていること、オリジナルコミック事業が第 4 四半期で過去最高の売上を更新する等により全体の下支えとなり、収益の逡減傾向が最小化する方向感となります。この前提の中で、ヘルスケア事業が今後最も利益を伸ばせる事業であると思っており、特にクラウド薬歴や、子育て DX をどれだけ伸ばせられるかということが重要になります。またその他事業においても、AI 事業、法人向け DX 事業も伸ばしていけるので、これらの事業の方向性や具体的な内容を投資家の皆様にお伝えしていくことによって株価の上昇につなげたいと考えています。また、プライム市場にふさわしいコンプライアンス、コーポレートガバナンス体制をつくり、事業の拡大を通じてプライム市場での株価形成を図っていきたいと考えています。

Q2：対処すべき課題に記載されている環境変化において、様々な変化が考えられる中、eKYC が記載されているのはなぜか。(オンライン質問)

A2：対処すべき課題（の背景となる環境）として IoT、AI（人工知能）、5G（第 5 世代移動通信システム）、eKYC（オンライン本人確認）を掲げています。デジタルトランスフォーメーション（DX）という言葉で表現されることの多いクラウドの技術やスマートフォン・タブレット等の端末から、エンドユーザーとつながっていく仕組みが広がる中で、セキュリティに関する技術が非常に重要になってきています。当社が出資する関連会社の株式会社 Authlete は「認可」のサービスを行っていますが、この「認可」のサービスにはセキュリティが非常に重要です。また、金融機関向けサービスにおいては免許証と本人を一致させるような技術、ヘルスケア事業領域においては本人の顔と健康保険証を一致させるような技術など、ID パスワードではなく、生体認証のようなものを使って本人確認をする技術が、今後個人情報を守るうえで重要になると考えており、これらのことにより eKYC の分野にも力を入れていきたいと考えています。

以上